

会 議 録

会議の名称	令和7年度四者合同会議（令和7年度第4回スポーツ推進審議会）
事務局	生涯学習部生涯学習課
開催日時	令和8年2月2日（月）10時00分から11時30分まで
開催場所	市民会館萌え木ホールA会議室
出席者	【社会教育委員】 笹井委員長、池田委員、伊丹委員、北澤委員、鈴木委員、藤森委員、渡邊委員 【図書館協議会】 武井委員、二宮委員、本橋委員、八木委員 【公民館運営審議会】 大坪会長、池本委員、川上委員、倉持副会長、小勝委員、関委員、福井委員 【スポーツ推進審議会】 本橋副会長、岩城委員、太田委員、多田委員、服部委員、三輪委員、山田委員
欠席者	【社会教育委員】 金澤副委員長、小林委員、新井委員 【図書館協議会】 伊東委員、大串委員、清水委員、近松委員、林委員 【公民館運営審議会】 石原委員、嶋田委員、武田委員 【スポーツ推進審議会】 田中会長、檀原委員、渡邊委員
事務局	【生涯学習部】 平野部長 【生涯学習課】 濱松課長、生涯学習係 最所係長、スポーツ振興係 越係長、津田主任、松崎主事 【図書館】 三浦館長、庶務係 吉田係長 【公民館】 鈴木館長、庶務係 諏訪係長
会議次第	1 開会：本橋スポーツ推進審議会副会長 2 生涯学習部長挨拶 3 座談会「小金井市でスポーツをより推進するには」 4 グループ発表 5 閉会
内容	別紙のとおり
資料	別紙のとおり

濱松課長

定刻となりましたので、これより令和7年度四者合同会議を開催します。

本日、進行を務めます、生涯学習課長の濱松と申します。

先に配布物の確認をお願いします。

(配布資料の確認)

濱松課長

また、本日はこの後、グループごとの意見交換を行います。出席者名簿にあるグループのテーブルに座っていることを確認してください。

それでは、次第に従いまして、スポーツ推進審議会の副会長である、本橋から開会の御挨拶を申し上げます。

本橋副会長

皆様、お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。

私は、スポーツ推進審議会の副会長を務めております本橋と申します。よろしくお願いします。本年度は、スポーツ推進審議会が幹事をさせていただきますので、その代表として御挨拶させていただきます。

本日は、まず、当審議会の学識経験者の委員である太田あや子先生より、スポーツ推進審議会や小金井市スポーツ推進計画についてお話をいただきます。その後、皆様には、グループごとにそれぞれの立場や経験を生かした意見交換を行っていただきます。そして最後に、各グループで話し合った内容を発表していただきます。意見を共有する場を設けておりますので、よろしくお願いします。

最後に、スポーツ推進審議会は、令和4年に発足した新しい組織です。本日は私たちの審議会やスポーツ推進計画について皆様に御紹介申し上げるとともに、附属機関同士が相互に理解を深め、情報を共有し合うきっかけとなる場となればうれしく存じます。

本日は限られた時間ではありますが、どうぞよろしくお願いします。

濱松課長

本橋副会長、ありがとうございました。

続きまして、小金井市教育委員会生涯学習部長の平野より御挨拶申し上げます。平野は後ろにおりますので、よろしくお願いします。

平野部長

皆さん、おはようございます。

日頃から本市の、小金井市の生涯学習、社会教育に御尽力、御協力いただきまして誠にありがとうございます。また、本日は寒
い中、四者合同会議にお集まりいただきまして誠にありがとうございます。

四者合同会議は、社会教育委員の会議、図書館協議会、公民会
運営審議会、そして、本日幹事をお務めいただいているスポーツ
推進審議会の皆さんが一堂に会しまして、情報共有や意見交換
などを行う大変貴重な会だと思っております。この会を通じま
して、それぞれの知見や経験を持ち寄り、今後の連携やそれぞ
れの活動をより充実したものにしていただければ幸いです。

先ほどございましたけども、本日は大変限られた時間ではご
ざいます。活発な意見の交換等を期待しておりますので、教育委
員会といたしましても、皆さんの御意見をお伺いして、今後の施
策に生かしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしく
お願いいたします。

濱松課長

恐れ入りますが、部長は次の公務がございますので、これをもちまして退席とさせていただきます。

平野部長

すみません、よろしくお願いいたします。

濱松課長

続きまして、次第3、座談会「小金井市でスポーツをより推進するには」をテーマに、本日参加の皆様での意見交換をしていただきたいと思っております。これにつきまして、今、本橋副会長から御説明のあったとおりでございます。

この後の進行については、武蔵丘短期大学健康生活学科健康マネジメント専攻の元教授であります太田あや子先生にお願いしております。太田先生は、スポーツ推進審議会委員にも御就任していただいております。

それでは、太田先生、よろしくお願いいたします。

太田委員

では改めまして、皆様、おはようございます。

ただいま御紹介いただきました、武蔵丘短期大学、埼玉県にありますスポーツ系の短期大学で、2年前の定年までスポーツ系の学生にスポーツ行政論といって、スポーツ行政に関する授業と、水泳とスキューバダイビングの授業を担当しておりました。私自身、学芸大で学部と大学院の時代を過ごしまして、今も小平市に住んでいるものですから、武蔵小金井のほうにバスで出てきて、中央線でいろいろなところに行っているような次第です。御縁がありまして、こちらの審議会の委員を仰せつかりまして、2年目です。ということで、今日は、皆さんに小金井市のスポーツはどういう状況にあるのか、そういうことをお話しさせていただきたいと思います。

資料はホチキス留めのほうに、前に出てきますスライドが印刷がされておりますので、そちらのほう、また、画面を御覧いただければと思います。また、カラー刷りの第2次小金井市スポーツ推進計画、こちらも併せて御用意いただければと思います。

今日の話につきましては、まず、スポーツ推進審議会の活動についてお話しさせていただいて、先ほどから御紹介がありましたように、グループからの意見交換に時間を取らせていただき、最後に発表となります。昨年も私、スポーツ推進審議会の委員としてこの会に参加させていただいて、全然分野が違う人たちが集まって一体どういう意味があるのかなと思いながら参加したのですけれども、そのときに、今、実は新しい施設を造ろうとすると、図書館とか公民館とかいろいろものを一緒にした複合施設を造って、もう密に連携していろいろなことをやりましょうという話になっていまして、私自身は、埼玉県のそういったところの施設の審議会の委員もしているのですけれども、そこで複合施設という考え方を提案するのにとっても役に立っております。

皆さんと同じように生涯学習、そういったものを担当していく者として、ちょっと分野は違うんですけれども、今日はいろいろな話を聞かせていただければと考えておりますので、御意見をたくさん出していただければと思います。

では、小金井市のスポーツの状況についてお話をしていきたいと思います。

では、資料を1枚めくっていただきまして、どこで何を実施しているかと説明しなければいけないので、ちっちゃいものがい

っぱい並んでいますけれども、スポーツといったときに、今、小金井市のほうでも市民の皆さんにアンケートをするときに、御自身はどの程度スポーツをしていらっしゃいますかということアンケートでお聞きします。そんなときに、皆さんは「はい」とお答えになるか、「いいえ」とお答えになるかと思うんですけども、今、スポーツって、結構幅広いものを全部スポーツと呼んでいいことになったんです。

今、御覧いただいているスライドの1個下のスポーツ基本法と書いてあるところの四角のところを御覧ください。こちらです。今、国のほうでは、『スポーツとは個人または集団で行われる運動競技』、これは納得いくと思うんですけど、『その他の身体活動全てを含めてスポーツという』ことになっています。ですので、ウォーキングをする、例えば今日ここの会館にお見えになるときに、散歩がてら歩いて行こうかと思ったら、もう「スポーツ」していることになるんです。なので、アンケートが来たら必ず「している」と答えてください。頻度はどれぐらいと言ったら、年に1回ここに来るためだけ歩いている場合は、年に1回になります。でも、例えば、お買い物に行こうと思って、散歩がてら買物に行くんだと思えば「スポーツ」になりますので、週1回ぐらい運動している方はたくさんいらっしゃいます。

今、小金井公園、梅がきれいです。梅を見に行こう、もうこれは完全な「スポーツ」です。ということで、昔、私が学生だったときは、運動競技だけを指し示していた「スポーツ」は、今、物すごく幅広く、身体活動ということで、多くの皆さんが実は実践していることになっているんです。なので、決して皆さんに関わりがないことではないということは、まずここでお認めいただきたいと思います。

それでは、1つ戻りまして、小金井市のことについて見てまいりましょう。

これは一番新しい小金井の市報です。私もこちらのお仕事をさせていただくことになってから、毎月のようにこの市報を見ているんですけども、結構後ろのほうのページに、必ずこういうスポーツのページが出てまいります。このようにスポーツというコーナーがあって、大体7ページ、8ページぐらいのところにコーナーがあって、小金井市のスポーツに関する情報がいろいろ

ろ出ております。プロレス紹介やチャリティーダンスパーティ、いろいろなレクリエーション、またはウオーキング教室など、こういったものが出ていることを皆さん御存じでしょうか。私も皆さん方の活動のところをこの市報によって知ることができております。実際に市民の方に聞いてみますと、意外と「知らない」というアンケート調査結果が出ていまして、それを何とかしようというので、この審議会のほうでも何か策はないかなということを考えております。

では、スライドに戻ります。小金井市では実際に何をしているのかなということを見てまいりましょう。

実は、年代によってスポーツの関わり方というのを担当する行政の部署は違うのです。私どもが関係していますスポーツ推進審議会のほうは生涯スポーツの領域ということで、どっちかという、生涯学習、学校外のスポーツを担当するような形の部署のところに、「こうしたほうがいいですよといった意見をお伝えするような仕事をしています。

それ以外に、皆さんがイメージする体育、スポーツというと、まず学校の「体育」があります。こちらは教育委員会の管轄になりますので、体育の授業をどうしようとか、今、中学校の部活動を地域に出す活動が始まっておりますので、それを担当したりするのがこちらになってまいります。

次は、私ももう立派な高齢者になっているのですが、介護予防ということで、高齢者の方の健康づくり、または介護予防の運動を指導するのは、実は高齢者福祉の分野になりますので、所轄の官庁は厚生労働省系になっていくんです。今までの年代ところは文部科学省系だったのが、こういった高齢者の運動に関しては、厚生労働省系になっている。

また今度、就学前のお子さんの身体、健康、それから動きづくりをしようというときには、これは今度、子育て支援という分野になりまして、こちらにもまた関係の部署が変わってくるんです。

なので、実は小金井市では、学校であったり高齢者であったり、それからこういう就学前のお子さんや親子のことについていろんな活動していますけれども、生涯学習関係のところは、学校外のスポーツ活動を支えていくということになっています。ですから、ある意味では、すみ分け、ある意味では縦割りになってい

ますので、その年代年代で関わってくる担当部署が違うのです。同じ身体活動を扱っていますけれども、所轄も違いますし、内容もちょうと変わってくる。でも小金井市は、この全ての年齢の人たちに対していろいろな政策を練って、また、いろいろな形で情報や事業を提供しています。

こういったものを支えているのが、スライド次のこのページの下になります、スポーツ基本法という法律になります。昨年度9月に改正されまして、より広くいろいろな人たちがスポーツに親しみ、それが健康づくりであったり仲間づくりであったりするものに貢献していこうということで、いろいろな文言が並んでいます。大事なのは、ピンク色の下のほう、スポーツ団体の努力、地方スポーツ推進計画と書いてありまして、実は、スポーツに関しても、市区町村、また、都道府県でいろいろな形で手だてを考え、また、予算を使ってこの施策を実行していきましようということが明文化されているのです。なので、図書館の運営であったりとか、それから公民館の運営であったりとか、そういうものと同じ立場になっております。ですので、予算もつきますし、その予算に基づいていろいろな活動が行われることが一応法的にも保障されている、こういう活動になります。

スポーツというと、趣味の領域を出ないという考え方もあるのですが、今は、国民が広く享受できる権利として定義されておりますので、その権利をきちんといろんな市民が享受できるようにする、それが行政に課せられた使命として、こういう形での会議とか、実際の活動につながっております。

その隣のページに参ります。小金井市のスポーツ推進審議会が年2回から3回の審議会と、この四者の会議をもって成立しております。10名の委員がおりまして、こちらに紹介してありますような学識経験者――私はこの立場です。あと、社会体育の関係者であったり学校教育の関係者の方、また、市民公募のメンバーの方がいらっしゃいます。お手元にあります、こちらの第2次小金井市スポーツ推進計画の進捗状況をチェックしたり、また、市のスポーツに関係する予算などについて審議させていただいて、意見をお伝えしているようなことを仕事としております。

では、私どもが扱っております第2次小金井市スポーツ推進

計画について、簡単に御紹介してまいります。本当は、63ページに及ぶ分厚い報告書なんですけれども、これを概要版に示したものが皆さんのお手元のカラー刷りとなっております。いろいろな位置づけ等が書いてありまして、中を開いていただきますと、今後、小金井市が積極的に取り組んでいって、令和12年までに達成すべき数値目標を左側に示して、3つのことに力を入れていきますということで計画を立てております。皆さん御存じでしたでしょうか。これも市民の方にアンケートすると、ほとんど知られていないという残念な結果が出ていますので、皆さんのところで、またこういった情報を提供していただけるかと思います。

まずは、誰もが親しめる運動・スポーツ活動の推進をしましょう、それから2番目が、運動・スポーツを通した健康づくりをしましょう、3番、運動・スポーツ環境を充実させましょう、こういったことを大きな目標にして、数値目標が達成できるように今、市のほうでも頑張っております。

では、今のところどうなのかということをお示しましたのが次のグラフになります。1枚めくってください。そうしますとグラフが立て続けに出てきております。この3つの目標に対して、今どんな状況なのかというのをグラフにまとめてみました。

1番の誰もが親しめる運動・スポーツ活動の推進につきましては、これ、データが一番新しいのがR6と書いてあるところになります。これが今、小金井市の現状です。目標値、本当は54.6%だった令和6年度の値を令和7年度は65%にしたいとなっています。今、これから集計したりしますので、結果は来年度、いろんな形で検討することになりますけれども、ちょっと厳しいかなというところになります。ただ、その隣に、R6の隣にR6国と書いてあって、国の場合は、週1回以上運動・スポーツを実施しているという方は52.8%なのです。小金井市は、令和6年のときに、ほんのちょっとですけども、国の平均値を上回っておりますので、ちょっとだけ意識が高いという形の結果になっております。令和12年度に向けて、この数値を70%にしていくのが大きな目標となっております。

続きまして、次のページに参りましょう。スポーツを通した健康づくりということで、自身は健康であり、日常生活に支障がな

いと感じている方、これは出元は、市長への手紙になっています。集計いたしますと、自身は健康であり、日常生活に支障がないと感じている市民の方の割合は、令和6年度は76%でした。実は、この計画を立てる前の令和4年度は80%で、最終目標値と同じぐらいだったんです。ただ、コロナの影響もあったりして一時期下がって、今、少しずつそのように感じる方が目標の80%に近づいている、そういう状況にあります。

次のグラフが、運動・スポーツ環境の充実ということで、市民スポーツ施設の利用者数を示しております。こちらは、令和6年度は40.7万人、それを令和7年度に60万人にして、それを維持していこうというのが目標値になっています。小金井市は、たくさんの運動の施設があります。特に、見にくいんですけど、上のほうにあります小金井市総合体育館並びに栗山公園健康運動センターは、多くの市民の方が「ある」ということは御存じです。利用しているかどうかは別として、あるんだということは御存じですし、すごいのは、温水プールが同一の市内に2か所あるということです。温水のプールは運営経費がかなりかかりますので、運営していくのが大変ですが、1年中、水に関する運動ができます。泳ぐだけではなくて、今はリハビリのため健康づくりのための水中ウォーキングに使えるので、このような点ではちょっと自慢してもいいような施設だと思いますので、こういったところをもっと多くの方に知っていただいて使っていただきたい、そういうのが私どもの目標になっております。

こういった状況を踏まえて、皆様のスポーツ生活から考えられるいろいろな御意見を今日この場で出していただきたいと思います。本日の狙いとしましては、小金井市におけるスポーツ活動の推進について、四者の皆さんの意見やアイデアを情報交換して、今後の審議に生かしていく時間とさせていただきたいと思います。

座談会については、先ほど御説明がありましたので、省略させていただきます。

幾つかこちらでもテーマを考えましたが、これに縛られることなく、お話をざっくばらんにしていただければと思いますが、テーマの中の(3)地域の連携による運動・スポーツを支える体制の充実などの御意見をいただきますと、先ほどの四者が連携

して何ができるかなということの御意見がいただけると、ここに集まった皆様方の貴重な時間を頂戴している意味が出てくるかなと思いますので、ファシリテーターの方に御協力いただきまして、お話を進めていただきたいと思います。

では、これで私のお話を終了させていただきます。

では、ファシリテーターの皆さんのほうで、これから話を進めていただきたいと思います。時間になる1分前にこちらでお伝えしますので、うまくまとめて最後の発表におつなぎください。

では皆さん、どうぞよろしくお願いします。

(グループごとの意見交換)

太田委員 それでは、皆さん、お話も盛り上がっているところではございますが、予定の時間となりましたので、ご意見をまとめる必要はございませんので、こういう意見が出ていたということで御報告をいただければと思います。準備はよろしいですか。30秒ほど準備の時間を用意したいと思いますので、発表の方、御準備をお願いいたします。1班から順番でお願いしたいと思いますので。

今、書記の係の方がメモされたものを、恐縮なんですけど、退室されるときにこちらの係にお渡しいただいて、審議会のほうでそのメモをまとめまして、今後に生かさせていただきたいと思っています。よろしいでしょうか。

1班、御準備よろしいですか。その場で結構です。

太田委員 よろしくお願いします。では、1班です。

1班 1班です。自己紹介が盛り上がり過ぎて、ちょっと後半の時間があまりなかったのですが、3つのテーマのうちの3つ目の地域の連携による運動・スポーツを支える体制の充実、公民館・図書館でのスポーツ関連事業との連携啓発みたいなこのテーマを選びました。

その中で、地域が連携する中で、スポーツというものが、子どもたち、小学生とか中学生とかはどちらかというと競技性の高いもの、勝敗を競うとかというものだったりするのに対して、高

齢者とかは、健康増進とかという、やっぱり運動・スポーツの定義が大分二極化しているので、その中間みたいなものがあるといいよねという話をされていて、その中間というものは、そもそもスポーツと文化をつなぐとか、スポーツの目的的なもの、勝敗だけじゃない、健康増進だけじゃないみたいなものは、皆さんともうちよつと共有できるようになるといいよねというところから、図書館にある、例えば本とかを……、ちょっと説明の仕方を変えます。

ボッチャとかモルックというニュースポーツみたいなものの話が出たんですけど、ボッチャとかモルックというのは、年齢とか性別、あと体力ある、ないにかかわらず楽しめるよというところで、図書館にそれに関連する本があれば、その本と道具と、あと、できるインストラクターの人とかを1つにまとめてセットでどこかに出張で行けるとか、アウトリーチで出られるとかいうサービスがあれば、何か連携していろいろできるのではないかという話に膨らみました。

やっぱり道具だけあっても、どうやってやるか分からないとあまり盛り上がらないとか、図書館に行って本があるんだと思っても、実際、読んだからといって、道具がなければやる気にならないとか、何かその辺のものが全てまとまっているサービスがあるといいかなという感じではお話がありました。あと何かありましたっけ。そんな感じですかね。

以上です。

太田委員

ありがとうございました。（拍手）

新たなまた御提案をいただきましてありがとうございました。
それでは、次、2班、お願いいたします。

2班

2班は、テーマの2番のふだん、運動・スポーツを実施していない市民にという、このテーマで話し合い、最終的に落ち着きました。

まず最初に、いろいろな施設でいろんなスポーツとかの周知とか、こういうのをどんなにしても届くのだろうかというところがまず問題かなと話し合いまして、あと、スポーツというふうにハードルを上げてしまうと、いろんな人の参加が難しくなっ

てしまうので、ハードルは極力下げて、例えば歩くだけでもいいので、それを広められないかというような話になりました。

歩くのも、例えば市内の史跡だとか、そういうところに行っていただく。そういうのを集まって行くというと、またこれハードルが上がってしまうので、できれば個人でいろいろ歩いていただけるような、そういうシステムができれば、みんな参加しやすいんじゃないかなという話になりまして、一番手っ取り早いのは、ラジオ体操のように、そこに行ったらスタンプを押すだとか、そういうような感じで参加していただくとか。

あとは、アプリを開発、これはハードルが相当、運営のほうのハードルが上がってしまうんですけども、アプリを開発して、どのぐらいの距離を歩いたかとか、どこに行きましたとか、あとは、速度とかも計測できれば、よりスポーツふうになるのかなとか思うんですけども、そういう感じのアプリを市から配布して、個人で参加していただく。何かしらの小さな御褒美みたいなのがあれば、みんな参加しやすいのかなと、そういう感じに話をしました。

あと、ちょっと付け加えるんですけども、無理やり図書館というのを付け加えるのであれば、史跡の案内みたいなのを、スポーツ、こんなのをやっています、図書館ではその紹介をしていますというので関連づければ、何とか連携できるのかなというのもちょっと思っています。

以上です。（拍手）

太田委員

具体的な御提案をありがとうございました。

それでは、3班のほう、お願いいたします。

3班

3班です。3班では、テーマを3つとも話したんですけども、まず、1つ目のテーマなんですが、働き盛り、子育て世代参加ということで、現状として、社会ではジムとかがすごくはやっていて、実際、公共の体育館にもジム施設があるんですけども、時間が9時から夜の9時までしかやっていないことなので、自由な時間帯での利用がなかなか難しいというところで、なかなか利用者が増えない、ただ一方メリットとしては、利用料がリーズナブルなので、もっと周知することがすごく大事なかなという話

が出ました。

2つ目のテーマなんですが、ふだん、運動・スポーツを実施しない市民に興味・関心を持つ機会ということで、まずは、そもそも体育館がどんな施設なのかも分からないとか、体育館以外もそうですが、そういう人たちに知ってもらうためにも、まずはもう無料開放して、そもそも使われてないんだったら、ただで使わせてあげればいいんじゃないという考えです。まずは、場所を提供して知っていただく。そして、3つ目のテーマにもつながるんですが、いきなりスポーツやろうと言ってもなかなか難しいので、公民館とかを使って、このスポーツはこんななんだけど、一緒にやらない？ みたいな、ゼロイチをつくるようなきっかけをつくる機会をまずそこでつくってから、今度は体育館でこのようにやってみましょうみたいな、そういう企画というのができないかなという話が出ていました。

3つ目のテーマですが、前提として足立区の例が出まして、図書館、公民館、体育館というものが複合化していて、どうしても縦割りなので、各公共施設が、そうすると、横のつながりで新しい事業を生み出すのがなかなか難しいよねという話だったので、ぜひとも庁舎問題もいろいろとあるんですけど、こういったものを、複合化を進めていけたらいいよねと。

連携することで、さっき言ったのは体育館で絵本の読み聞かせをやったり、公民館とか、そこで簡単なストレッチとかスポーツをやったり、あとは、図書館で黙々と本を読んで何かやるのは難しいかもしれないんですけど、本を読むと体が固まっちゃうので、みんなでストレッチをやったりとか、ちょっとでも交流がうまくできるように、各管理しているところがあると思うんですけど、そこを飛び越えて企画ができれば、もっと一般市民が活発に参加できるんじゃないかなという話です。

以上です。（拍手）

太田委員

具体例を交えてありがとうございました。

それでは、4班、お願いいたします。

4班

4班の話合いの結果の発表でございます。3つのテーマにつきまして、ランダムに話し合いました。

1つ目の(1)に関しては、スポーツの実施率を上げる方法についてなんですけれども、意見が出たのは、これはスポーツの定義自体を啓蒙する必要があるんじゃないかなというお話です。例えばというか、身体活動全てがスポーツという点とすると、例えば、もう本当に散歩する、あるいは、高齢者向けの方のスポーツ、ニュースポーツなんかを提案してというお話。これもスポーツ活動全てになるので、実施率上がりますよねというお話です。

2つ目、(2)の市民に関心を持つ機会の充実についてなんですけども、この場で特に出たのは、男性の高齢者をどう参加させるかというお話が結構盛り上がりました。傾向として、特に高齢者の方の場合、会社の立場を退職されても引きずっちゃって、なかなか表に出る機会が減っちゃうよねという意見をいただきましたということで、要は、お年寄りでも参加できるイベントというのを検討していくというのがいいんじゃないかなというお話です。例えば、イメージでいうと、東京都の建物を見る会と。建物と言いつつも、実際には散歩して歩くみたいな、そういう仕掛けというのが面白いんじゃないかなというお話でございます。

あとは(2)に関してもう一つ意見があったのが、1人で参加する障壁をいかに乗り越えるかというところです。割と私なんかもそうだったんですけれども、結果的にそういう市の水泳とかに参加しているんですけど、やっぱり一番初めに申し込むというのが怖いんです。ただ、そこ乗り越えちゃうと参加できる。こんな講座ある、あんな講座あるというところで参加率も上がるので、そういった仕掛けを考える必要があるかなと。

(3)連携についてということですが、これもやっぱりスポーツの固定観念を外すということで、杉並区の例を御紹介いただいたんですけれども、杉並区の図書館で、子どもに絵本を紹介する活動というのをやったんですけど、そのときに、図書館に畳を敷き詰めて、要は子どもが駆けっこできるような仕組みをつくったりとか、あるいはプログラムの中にも、お母さんが高い高いをするプログラムがあったりする。そうすると、知らずのうちにママは筋トレやっているわけですね。そんな仕掛けが面白いんじゃないかなというお話になりました。

以上でございます。(拍手)

太田委員

また、新たな視点でのお話、ありがとうございました。
では、最後、5班、よろしくお願いします。

5班

私たちは、子どもとスポーツする時間がないとか、子育て世代はほとんど時間がないよねという話から始まって、子育て世代はお見送りとか見守りがあって、でも、スポーツは散歩でもオーケーとか身体活動はスポーツになるという、スポーツに対するハードルを下げるということがまず必要じゃないかとなって、あとは、時間や場所、手段をどうやって広げるのかということ話をしました。例えば親子で楽しめるダンスとかイベントとか、あとはオンラインを積極的に活用することなんかが意見で出ました。これは1番のテーマについてです。

あと、2番なんですけど、ふだんスポーツしていない人たちの興味を上げるのにはきっかけづくりが必要で、昔、都のイベントで、昔はお金をかけた親子で歩き回るようなイベントがあって、それがよいきっかけでスポーツに対しても興味を持つようになった方が多かったので、そういったいいイベントがあれば、何かしらきっかけづくりにもつながるし、例えば集客が難しく、いいイベントがあっても埋もれてしまうようなものとかも、市報やSNS、学校からの周知、市や都からの補助があったらもっといいのにねという話が出て、最近ではダンスを見るのが広まっているので、誰もが楽しめるような簡単なブレイクダンス教室が始まっていて、私のことなんですけど、手話ダンスをやっている教室をやっておりますので、そういったことを来年度の事業計画で、ミュージカル参加のほうもあるので、やらせていただきます。それはさっき宣伝しちゃったんですけど。

あと、3番のテーマに関してなんですけど、小金井市だったら清里山荘などの施設があって、スキーなどのスポーツをするのに安く利用ができるので、もっと多くの人が活用できたらいいのになというようにお話が出ました。ポッチャ体験などのような学校配信のニュースとかもあるので、そういった親子スポーツなどは、親子でできるようなスポーツは学校配信とかをしたらいいのではないのでしょうかという話があったぐらいですかね。何かありますか。

以上です。（拍手）

太田委員

障がい者の人も交えた形でという御提案をありがとうございました。

おかげさまで、それぞれの班から他市や、また他区の事例が上がってきて、私どもは思いつかないような御提案がたくさんありまして、今後、この今日の会の皆さんの御意見を審議にうまく反映させていければいいなと思いました。本当にたくさんの御意見をいただき、また、盛り上がってお話をしていただきましてありがとうございました。おかげさまで、とても私どものスポーツ推進審議会にとりましていい時間となりました。皆さんもぜひ今日の時間をお持ち帰りいただいて、お仲間の方にも共有していただければと思います。

それでは、私はこれで任を解かせていただきまして、市のほうにお返しいたします。

市事務局

記録用紙を受付にお持ちください。皆様、本日はありがとうございました。

—— 了 ——